

約束4-(1)	子育てするなら弘前で、を目指します。【子育て】
めざす姿	子育てに適した環境が整って、安心して子どもを産み、元気に育てることができ、子ども達の笑顔があふれています。

I 4年間の総括

主な取組と成果
<p>・平成22年7月に子育て支援課を設置以来、平成23年度から母子保健と児童福祉の窓口業務のワンストップ化(約束5-4「子育て支援課母子保健福祉窓口業務体制強化」)を行い、平成23年10月には市の子どもに関する基本的な指針となる「Smile弘前子育てマスタープラン」を策定するなど、アクションプランに掲げた個別の事業については、すべて実施しました。</p> <p>・経済的支援としては、子育てに適した住環境の創出を図るために、住宅の新築やリフォームを行う市民に対して補助金を交付する「子育てスマイル(住まいる)アップ補助事業」を平成24年度から実施しています。また、平成25年度からは概ね高校生までの子どもの入院医療費を無料化しました。いずれも、県内10市では初となる試みです。また、3人以上の子どもがいる多子家族に、公共施設の利用料を免除する「ひろさき多子家族応援パスポート事業」を平成25年度から実施しています。</p> <p>・子育て環境の整備としては、平成23年度から保護者が平日の夜間や休日に就労等の都合で家庭での養育が困難な場合に預けることができる「トワイライトステイ事業」を実施しています。また、放課後児童健全育成事業(学童保育)の時間延長にも取り組みました。平成24年度から「ワーク・ライフ・バランス啓発事業」として、仕事と子育ての両立支援を推進するためのフォーラムを開催する「ワークライフバランス啓発事業」に取り組んでいます。</p> <p>・平成25年7月には、弘前駅前前の商業ビルであるヒロロ内に「駅前こどもの広場」を開設しました。駅前こどもの広場は、市の子育て支援の拠点となる施設で、平成26年3月末までの9か月間で延べ約13万人の親子に利用していただきました。</p>
課 題
<p>・個別事業は着実に実施しているものの、指標①子育て支援サービスに対する満足度が、目標に達していません。これは、市民のニーズが、特に保育料や医療費助成などの経済的支援に集中しているため、アクションプランの中で「子育てスマイル(住まいる)アップ補助金」や「子ども医療費給付事業」、「ひろさき多子家族応援パスポート事業」の独自経済的支援策を展開してきましたが、十分とは言えなかったためと思われ、今後市の財政状況を踏まえながら、新たな支援策を検討する必要があります。</p> <p>・また、学童保育の満足度を示す指標④「放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。」の数値が目標に届かなかったのは、平成25年度に開設時間を30分延長し午後6時までとしましたが、保護者の希望する開設時間には至らなかったことや、開設場所が遠い、部屋の面積が狭い等の課題もあることから、今後もこれらに対する対応が必要となります。</p> <p>・町会の子ども会や青少年育成委員の活動は様々な要因から不安定な状況となっているので、「子ども会活動推進事業」を主要施策とした、地域の子どもの活動を推進することが必要です。</p> <p>・弘前市には、豊かな自然がもたらす恵みや歴史と伝統に培われた文化があり、さらに高等教育機関が集積し、医療の充実したまちであるなど、子どもの育ちに有益な環境があります。「子育てするなら弘前で、を目指します」については、それらも含めたトータルでの子育て・子育てのしやすさについての周知方法を検討する必要があります。</p>

「めざす姿の達成状況を示す指標」の動向と分析

【結果説明】

・アクションプラン2010、2012まで、「合計特殊出生率 目標値1.30」を指標としていましたが、5年毎に公表される数字であるため、これを関連指標として、アクションプラン2013において当指標に変更しました。

・保育料の無料化や、子ども医療費の無料化など、市民のニーズは、経済的支援に集中しています。これまで、18歳までの入院医療費無料化や、子育てスマイル(住まいの)アップ補助事業など、独自支援策の展開をしていますが、経済的支援の部分でさらなる取り組みが求められているものと分析しています。

【社会経済動向等】

・質の高い幼児教育・保育の総合的な提供、保育の量的な拡大、地域の子ども・子育て支援の充実のため、平成24年8月「子ども・子育て支援法」(関連3法)が公布され、子ども・子育て支援新制度として、平成27年4月より実施されることとなっています。

【県・他都市等の状況】

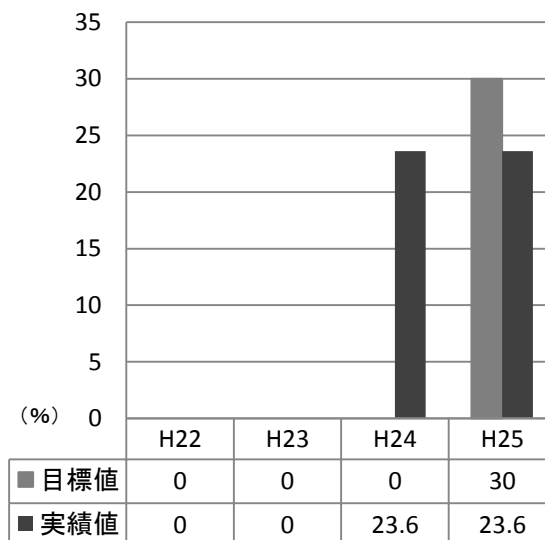
・関連3法では、地域の実情に応じた「子ども・子育て支援事業計画」(5ヵ年計画)を全国の市町村が策定することとなっています。

・保育料については平成26年度から西目屋村が完全無料化、平川市では第3子以降から第2子以降に無料化を拡大しました。また、出産祝い金として、第3子以降に平川市は30万円、藤崎町は10万円を支給しています。

・全国的にみると、財政的に豊かな自治体や、人口規模の小さい自治体において保育料の無料化や出産祝い金を支給している傾向にあります。

①子育て支援サービスに満足している市民を増やします。

高校生以下の家族と同居している市民で、「満足である」「どちらかといえば満足である」と回答した市民の割合



資料:市民評価アンケート

【結果説明】

・平成23年度に保育所入所基準の見直しを行い、保護者の産休・育休明けや年度途中就労者に対する優先枠を拡大しています。

また、入所申込みの多い保育所に対しては定員増の指導をする等、定員の適正化を進めており、待機児童0人を維持しています。

【社会経済動向等】

・就学前児童数は年々減少していますが、共働き家庭の増加に伴い保育所入所率は増加しており、入所児童数は横ばい傾向となっています。

【県・他都市等の状況】

・保育所待機児童数は、全国値では平成22年度をピークにその後は減少しております。県内でも平成23年度以降は全ての市町村において0人で推移しています。

②保育所待機児童数 0人を維持します。
※産休・育休明け、年度途中就労による入所基準を改善します。

保育所待機児童数(単位:人)

	H22	H23	H24	H25
目標値	0	0	0	0
実績値	0	0	0	0
青森県値	5	0	0	0
全国値	26,275	25,556	24,825	22,741

資料:実績値-子育て支援課
青森県値・全国値-厚生労働省

【結果説明】

・待機児童は4年を通じて0人です。

【社会経済動向等】

・全国的に学童保育の利用児童数は年々増加傾向にあり、親が仕事と育児の両立が難しくなる「小1の壁」が課題となっています。

【県・他都市等の状況】

・県内自治体における待機児童はほぼ0人ですが、待機児童数が最も多い東京都では1,650人(H26.5.1現在)にのぼっています。

③放課後待機児童数 0人を目指します。

	H22	H23	H24	H25
目標値	0	0	0	0
実績値	0	0	0	0

資料:子育て支援課

「めざす姿の達成状況を示す指標」の動向と分析

【結果説明】

・閉会時間を30分遅くし、土曜日と長期休業期間は開会時間を30分早めた開設時間の延長を、平成25年度までに実施するとともに、お盆期間は5か所で開設しましたが、平成23年度以降、実績値は下がっています。

【社会経済動向等】

・共働き家庭の増加に伴い、学童保育を利用する児童数は増加傾向にあります。また、保護者の勤務形態の多様化から、利用時間帯についても、更なる開設時間の延長に対するニーズが高まっています。

【県・他都市等の状況】

平日閉会時間

学校休業日

弘前市

放課後～午後6時

午前8時半～午後6時

青森市

放課後～午後6時

午前8時～午後6時

八戸市

放課後～午後7時

概ね午前7時半～午後7時

④放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。

中学生以下の家族と同居している市民で「わからない」「無回答」を除いた「満足である」「どちらかといえば満足である」と回答した市民の割合

50

40

30

20

10

(%) 0

◇

目標値

実績値

H22

H23

H24

H25

35.2

41.6

35.6

30.8

資料: 市民評価アンケート

【結果説明】

・平成23年度に最終目標値21.0%を達成したことから、アクションプラン2013で最終目標値を上方修正して取り組み、平成24年度も最終目標値を上回りましたが、平成25年度は下回りました。

・終始、「機会があれば参加したい割合」も多いことから、引き続き市民や関係者に対して必要性をアピールしていきます。

【社会経済動向等】

・核家族化や単身世帯の増加、情報技術の著しい進展が、子どもたちの人間関係づくりに、また、集団生活や外遊び、自然とのふれあいや社会活動の体験が減少し、子どもたちの成長に影響を及ぼしています。

【県・他都市等の状況】

県内では、多くの市町村が市民活動による地域(コミュニティや子ども会を含む)活性化への支援や助成はあるものの、子どもの会又は子どもの活動を推進する環境を醸成する取り組みに特化した支援や助成を実施しているのは、当市のみとなっています。

⑤青少年の健全育成活動(子ども会等を含む)に参加したことがある市民を増やします。

健全育成活動に参加したことがある割合

50

45

40

35

30

25

20

15

(%) 10

◇

目標値

実績値

潜在値

H22

H23

H24

H25

16.0

17.0

18.5

23.0

20.3

24.1

25.3

21.0

46.8

46.3

42.0

45.7

※潜在値＝機会があれば参加したい割合

資料: 市民評価アンケート

関連指標

弘前市の合計特殊出生率

2

1.5

1

0.5

1.45

1.44

1.3

1.19

1.23

S63-H4

H5-H9

H10-H14

H15-H19

H20-H24

Ⅱ 今後の方向性

取組の方向性

- ・子育て世代の出産・育児に対する不安の解消により出産意欲の向上を図るとともに、保育、学校教育、労働環境などを充実させ、子育てがしやすい環境を整えます。
- ・「子ども・子育て関連3法」の施行に伴い、関係機関の代表者、有識者、市民を委員とする「弘前市子ども・子育て会議」を設置し、法に基づく子ども・子育て支援事業計画を平成26年度内に策定する必要があります。策定に当たっては、十分に会議での意見を聴取し反映させることが求められます。
- ・放課後健全育成事業については、学校施設の活用も含めて関係機関と協議し、必要に応じて拡大に努めます。
- ・子育てや教育にかかる様々な不安や負担感から、初産も含め希望する数の子どもの出産を控えている実態を踏まえ、子育てにかかる経済的負担については、多様な支援メニューを実施し軽減を図っていきます。
- ・子ども会活動推進事業を主要施策とした、地域の子どもの活動を促す地域住民の活動を推進していきます。
- ・今後、子育て環境は益々複雑になり、様々な環境にある子どもや子育て家庭への対策が必要になると思われることから、児童虐待の未然防止やDV、子育てに関する適切な支援に繋ぐため、相談員の資質向上と相談体制の充実を進めていきます。

経営計画への反映等

- ・子育てに係る負担感の軽減に対する取り組みの強化策として、保育サービスの拡充施策の事業に「放課後児童健全育成事業」を位置づけ、更なる開設時間の延長に取り組むこととしています。また、経済的支援の充実施策の事業に「保育料の軽減」「子ども医療費給付事業」等を位置づけ、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることとしています。
- ・社会を生き抜き、未来をつくる弘前っ子の育成に対する取り組みの強化策として、「生きる力を育む地域活動の支援」施策の事業に「子ども会活動推進事業」を位置づけ、地域において青少年を育成するための取組みや活動を支援することとしています。
- ・笑顔あふれる子育て環境づくりに対する取り組みの強化策として、「様々な環境にある子どもや子育て家庭への支援の充実」施策の事業に「家庭児童相談事業」「子育て支援相談事業」を位置づけ、相談員の資質向上と相談体制の充実を図るなど、子育てに関する不安を軽減する取り組みを強化することとしています。

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
4-1)-1	「子育てスマイル(住まいる)アップ補助金」の支給	進捗率	子育てに適した住環境の整備を目的とした住宅の新築・購入・リフォームを行った者に対し、補助金を交付しました。 工程表通り平成25年4月から補助事業を実施したことから、「工程表どおりに実施済み」と評価しました。				
		A					
	事務事業名	達成率	平成24年度の補助実績と消費税増税前の需要増により新築・購入の比重が増すと見込まれることを勘案し、目標を「補助件数65件/年」と設定しました。結果として予算額の2倍を超える申請があり、ほぼ予算額通りの補助により、子育てに適した住環境の整備に寄与することができました。目標の65 件/年に対し、171件の申請を受け、66件の交付を行い、定住促進を図るために設定した転入者の優遇枠には7件が該当しました。				
	子育てスマイル(住まいる)アップ補助事業	A					
	実施内容	目標	H22	H23	H24	H25	
	子育て家庭に対する経済的支援策として、子育てに適した住環境の創出及び定住促進を図るため、市内施工業者を活用して、住宅の新築や中古住宅等の購入または住宅の増改築等のリフォーム工事を行った者に対し、弘前市子育てスマイル(住まいる)アップ補助金を交付する。	補助件数 80件/年(H24) 65件/年(H25)	-	-	75	66	
		決算額	0	0	24,275	24,813	
		総括	平成24年、平成25年の2年度の実施となりましたが、目標件数の2倍以上の申請をうけ、子育て家庭の住環境の向上と経済的支援を行うことができました。また、平成25年度については、転入者の優遇について7件が実施され、所期の目的を果たしました。 希望の高い事業であるので、当選倍率が高くないよう事業内容の維持を行っていきます。				
		経営計画への反映等	子育てに係る負担の軽減を図る必要があることから経営計画に位置付けて継続して取り組みます。 経営計画:「子育てスマイル(住まいる)アップ補助事業」				

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
4-1)-2	休日や夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実	進捗率	施策を構成する2事業について、共に「工程表どおり実施」との評価になっていることから、施策全体としても「工程表どおり実施」と評価しました。				
		A					
		達成率	施策を構成する2事業について、共に「目標を達成」との評価になっていることから、施策全体としても「目標を達成」と評価しました。				
		A					
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
	(1)トワイライトステイ(夜間養護等)事業	進捗率	弘前愛成園に併設される児童家庭支援センター「太陽」に引き続き委託し、事業を実施したことから、工程表どおり実施と評価しました。事業の周知が進み開設時間を30分延長したこともあり、24年度には大幅に利用が増加しました。25年度実績は、前年と比較してほぼ横ばいとなっています。				
		A					
	実施内容	達成率	目標は「実施施設数1か所」としており、目標を達成済みです。 参考指標としての利用児童数 100人/年は、実績が 808人であることから目標を達成と評価しました。				
	(1)保護者が平日の夜間や休日、就労等の都合で児童を家庭で養育することが困難な場合などに、保護を適切に行うことができる施設においてその児童を保護し、生活指導、食事の提供等を行う。	A					
		目標	H22	H23	H24	H25	
		実施施設数 1か所	-	1	1	1	
		【参考指標】利用児童数 100人/年	-	137	817	808	
		決算額	0	1,606	2,240	2,713	
	総括	利用児童数は平成24年度からほぼ横ばいで、今後も同様に推移する見込みです。 児童の送迎や開設時間の延長、障がい児等の特別な支援を要する児童への対応が課題と言えます。					
	経営計画への反映等	平成27年度からの「子ども・子育て支援新制度」においても、市町村事業として引き続き実施される見込みです。 経営計画:「トワイライトステイ事業」					

事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
(2)放課後児童健全育成事業	進捗率	平成25年度は全15か所において時間延長(閉会時間を30分遅くし、土曜日と長期休業期間には開会時間を30分早めました。)を実施し、お盆期間に4か所で開会したことから、「工程表どおり実施済み」と評価しました。				
	A					
(2)放課後児童健全育成事業(なかよし会)について ①時間延長する施設の段階的な拡大により、学童保育体制を充実する。 延長時間については、弾力的に運用し、地域の実情に合った体制とする。また、地域の協力を得ながら時間を延長する方策について検討する。 ②お盆期間に開会する。	達成率	目標の1つ「実施施設数」は、平成25年度 全15か所で時間延長を実施済みです。もう1つ「お盆期間の開会」は5か所で開設を予定しており、希望者を募ったところ1か所で利用希望がなかったため4か所で開設したことから「目標を達成済み」と評価しました。				
	A					
	目標		H22	H23	H24	H25
	実施施設数 H23 4か所、H24 6か所、H25 15か所		-	4	6	15
	お盆期間に開会する H24、H25 5か所程度で実施		-	-	4	4
	決算額		0	1,610	2,274	3,890
	総括	計画期間を通じて、目標とした時間延長の実施数、お盆期間の開会を達成しました。子ども・子育て新システム導入後は、対象を小学6年生まで拡大すること検討する必要があることから、開設場所の面積の問題が生じてきます。				
	経営計画への反映等	(H25利用者アンケートの結果、延長保育、対象学年の拡大、休日保育の要望有り)・・・対応可能などから実施します。 経営計画:「放課後児童健全育成事業」「放課後児童健全育成事業(児童館・児童センター内実施)」				

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
4-(1)-3-1	子育て支援課の設置とSmile弘前子育てマスタープラン策定	進捗率	平成22年7月 子育て支援課を設置し、平成23年10月 Smile弘前子育てマスタープランを策定しました。施策を構成する2事業について、ともに「工程表通り実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「工程表通り実施済み」と評価しました。				
		A					
		達成率	平成22年7月 子育て支援課を設置し、アクションプラン、Smile弘前子育てマスタープラン等により子育て支援策の充実・強化を図りました。また、施策を構成する2事業についても、ともに過年度に設定した目標を達成しております。				
		(A)					
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
	子育て支援課設置	進捗率	平成22年7月 子育て支援課を設置済みです。平成25年度においても引き続き子育て支援策の充実・強化を図っていることから「工程表通り実施済み」と評価しました。				
		A					
	実施内容	達成率	【平成22年度取組済み】 平成22年7月に「子育て支援課」を設置しました。				
	「子育て支援課」を設置し、子育て支援策の充実・強化を図る。	(A)					
		目標		H22	H23	H24	H25
		－		－	－	－	－
		決算額		－	－	－	－
		総括	アクションプラン、Smile弘前子育てマスタープラン等を実行しながら、子育て支援策の充実強化が図られ、経営計画へ体系的に子育て支援策がまとめられました。				
		経営計画への反映等	子育て支援策の更なる充実を図り、「産み育てたいまち「ひろさき」」の中に体系的に子育て支援策を位置づけました。				
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
	Smile弘前子育てマスタープラン策定	進捗率	平成23年10月 Smile弘前子育てマスタープランを策定し、平成25年度においてもプランに基づいた事業を実施し、進行管理したことから「工程表通り実施済み」と評価しました。				
		A					
	実施内容	達成率	【平成23年度目標達成済み】 「弘前市子ども・子育て支援推進協議会開催」、「子ども・子育て支援シンポジウム開催」の各目標について、平成23年度に目標を達成し事業を完了しました。（平成25年度目標設定なし）				
	安心して子どもを産み育てることができ、子どもの笑顔あふれる弘前を目指し、弘前市の将来を支える子どもに関する施策の基本的な指針となる「Smile弘前子育てマスタープラン」を策定する。 地域の実情を把握し弘前らしさを十分考慮したものとする。	(A)					
目標		H22	H23	H24	H25		
弘前市子ども・子育て支援推進協議会開催(H22～H23) 2回/年		2	2	1	1		
子ども・子育て支援シンポジウム開催 1回(H22)		0	1	－	－		
決算額		489	934	178	150		
総括		安心して子どもを産み育てることができ、子どもの笑顔あふれる弘前を目指し、策定されたマスタープランについて定期的に進行管理を行い、子育て支援策の進捗状況等を十分に検討しました。					
経営計画への反映等		子育て支援策の更なる充実を図り、「産み育てたいまち「ひろさき」」の中に体系的に子育て支援策を位置づけました。					

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
☆ 4-(1)-3-2	Smile弘前子育てマスタープラン推進	進捗率	施策を構成する5事業について、いずれも「工程表通り実施済み」との評価になっていることから、全体としても「工程表通り実施済み」と評価しました。				
		A					
		達成率	構成する5事業について、全て目標を達成しました。				
		A					
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
	【再掲4-(1)-1】 (1)子育てスマイル(住まいる)アップ補助事業	進捗率	子育てに適した住環境の整備を目的とした住宅の新築・購入・リフォームを行った者に対し、補助金を交付しました。 工程表通り平成25年4月から補助事業を実施したことから、「工程表どおりに実施済み」と評価しました。				
		A					
	実施内容	達成率	平成24年度の補助実績と消費税増税前の需要増により新築・購入の比重が増すと見込まれることを勘案し、目標を「補助件数65件/年」と設定しました。結果として予算額の2倍を超える申請があり、ほぼ予算額通りの補助により、子育てに適した住環境の整備に寄与することができました。目標の65件/年に対し、171件の申請を受け、66件の交付を行い、定住促進を図るために設定した転入者の優遇枠には7件が該当しました。				
	平成23年10月に策定したSmile弘前子育てマスタープランに基づき、弘前ならではの施策として、「子育てに適した住環境への支援」、「仕事と子育ての両立支援の推進(ワークライフバランスの実現)」、「学生・大学等の力を活用した支援体制の確立」を実施し、さらに経済的支援の拡充により、プランの推進を図る。 ※「子育てに適した住環境への支援」については4-(1)-1で実施。 また、弘前市子ども子育て支援推進協議会において、プランの進行管理を行う。	A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		補助件数 65件/年		-	-	75	66
		決算額		0	0(再)	24,275	24,813
	総括	平成24年、平成25年の2年度の実施となったが、目標件数の2倍以上の申請をうけ、子育て家庭の住環境の向上と経済的支援を行うことができました。また、平成25年度については、転入者の優遇について7件が実施され、所期の目的を果たしました。希望の高い事業であるので、当選倍率が高くならないよう事業内容の維持を行います。					
		子育てに係る負担の軽減を図る必要があることから、経営計画に位置付けて継続して取り組みます。 経営計画:「子育てスマイル(住まいる)アップ補助事業」					
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
	(2)ワークライフバランス啓発事業	進捗率	平成26年2月5日、仕事と子育ての両立支援の観点から市民・事業者を対象とした、ワーク・ライフ・バランスに関するフォーラムを開催しました。また、事業者に対してワーク・ライフ・バランスに関する意識調査を行い、現状とニーズを分析しました。				
		A					
	実施内容	達成率	平成25年度のフォーラム参加者は60人。アンケートの回答者は34人でフォーラムが参考になった、どちらかと言えば参考になったと回答した人は31人。目標のセミナーで啓発された参加者の割合から、回答者の91.2%の方がセミナーを有益ととらえている。と判断し「達成」と評価しました。				
	平成23年10月に策定したSmile弘前子育てマスタープランに基づき、弘前ならではの施策として、「子育てに適した住環境への支援」、「仕事と子育ての両立支援の推進(ワークライフバランスの実現)」、「学生・大学等の力を活用した支援体制の確立」を実施し、さらに経済的支援の拡充により、プランの推進を図る。 ※「子育てに適した住環境への支援」については4-(1)-1で実施。 また、弘前市子ども子育て支援推進協議会において、プランの進行管理を行う。	A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		セミナー等で啓発された参加者の割合 80%		-	-	-	91.2
		決算額		0	0	295	432
	総括	アクションプランによる取り組みの前と比べ、フォーラム参加者のワーク・ライフ・バランスに関する認識は深まっていると思います。 今後は、企業経営者・人事担当者への啓発を行い、ワーク・ライフ・バランスが推進されるよう働きかける必要があります。					
		ワークライフバランスの啓発をさらに推進するために、経営計画に位置付けて継続して取り組みます。 経営計画:「ワーク・ライフ・バランス啓発事業」					
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
	(3)大学の力を活用した子育て・子育て支援プログラム調査研究	進捗率	駅前こどもの広場を平成25年7月に開設し、平成24年度に完成した政策提言を踏まえた事業等を検討し実行していることから「工程表通り」実施と評価しました。				
		A					
	実施内容	達成率	駅前こどもの広場において、大学生と子どもを触れ合わせるイベントを実施するなど学生の力を活かした事業を実施しました。研究成果を反映させた事業数1としていることから「達成」と評価しました。				
	平成23年10月に策定したSmile弘前子育てマスタープランに基づき、弘前ならではの施策として、「子育てに適した住環境への支援」、「仕事と子育ての両立支援の推進(ワークライフバランスの実現)」、「学生・大学等の力を活用した支援体制の確立」を実施し、さらに経済的支援の拡充により、プランの推進を図る。 また、弘前市子ども子育て支援推進協議会において、プランの進行管理を行う。	A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		調査研究 1件		-	-	1	-
		研究成果を反映させた事業数 H25 1件		-	-	-	1
	総括	決算額		0	0	1,258	-
		大学の力を活用した子育て・子育て支援策は多様な子育て支援に重要な役割を果たすものです。今後は新たに開設された駅前こどもの広場の運営事業と併せて実施していく必要があります。					
	経営計画への反映等	駅前こどもの広場の運営事業として大学の力を活用した子育て・子育て支援をしていくことから、経営計画で継続していません。					

事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
(4)子ども医療費給付事業	進捗率	平成25年4月分から、工程表どおり、満18歳の年度末までの子どもの入院に係る医療費を給付し、無料化することを実施しました。				
	A					
実施内容 平成23年10月に策定したSmile弘前子育てマスタープランに基づき、弘前ならではの施策として、「子育てに適した住環境への支援」、「仕事と子育ての両立支援の推進(ワークライフバランスの実現)」、「学生・大学等の力を活用した支援体制の確立」を実施し、さらに経済的支援の拡充により、プランの推進を図る。 また、弘前市子ども子育て支援推進協議会において、プランの進行管理を行う。	達成率	目標の児童の入院費に対する不安が緩和される人の割合が60%に対し、弘前市市民評価アンケートにおいて、子どもが入院した場合の医療費に対する不安が緩和する人の割合が69.5%の結果となりました。				
	A					
	目標		H22	H23	H24	H25
	児童の入院費に対する不安が緩和される人の割合 60%		-	-	-	69.5
	決算額		0	0	178	150,072
	総括	平成25年4月の入院分からの実施でしたが、子育て環境の充実を促進するとともに、保護者の経済的負担の軽減に寄与し、医療費に対する不安の緩和を導き出したと考えます。				
	経営計画への反映等	事業内容を深く精査し、実状を勘案した結果、事業内容を拡充して実施の方向となり、要望の多い小学校就学前の通院の自己負担の無料化を行うこととしました。※経営計画「子ども医療費給付事業」				
事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
(5)ひろさき多子家族応援パスポート事業	進捗率	平成25年度当初、さくらまつり期間中の多子家族の無料券の実証実験を実施。平成25年7月16日から18歳未満の子どもが3人以上いる家庭にひろさき多子家族応援パスポートを交付しました。平成25年度に実施開始したことから、「工程表通り実施」として評価しました。				
	A					
実施内容 平成23年10月に策定したSmile弘前子育てマスタープランに基づき、弘前ならではの施策として、「子育てに適した住環境への支援」、「仕事と子育ての両立支援の推進(ワークライフバランスの実現)」、「学生・大学等の力を活用した支援体制の確立」を実施し、さらに経済的支援の拡充により、プランの推進を図る。 また、弘前市子ども子育て支援推進協議会において、プランの進行管理を行う。	達成率	多子家族応援パスポートを9か月間で237人に交付。延べ1,695人が無料で施設を利用しました。				
	A					
	目標		H22	H23	H24	H25
	利用者数 300人/年		-	-	-	1,695
	決算額		0	0	178	257
	総括	経済的負担の大きい多子家族に対し、公共施設の入場料負担を軽減することで、経済的負担軽減、文化・体育・社会教育施設の利用促進と家族のふれあいの創出など多面的な効果があります。利用者からも継続の希望が大きいことから、今後も継続していきたいと思います。 また、平成25年度は、パスポートの発行は開始年度であったためスタートが遅れましたが、平成26年度は4月から実施しており、次年度以降も同様に実施する予定です。				
	経営計画への反映等	当該事業は、経済的支援と文化・運動・社会教育施設の利用促進となり、多様な対策となることから経営計画の関連事業として位置づけ継続して取り組みます。 経営計画:関連事業「ひろさき多子家族応援パスポート事業」				

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
4-(1)-4	子育て支援センターの整備(高齢者と子どもの交流や集いの広場、地産地消食育レストラン、地域子育てサポーター〈高齢者による夜間休日保育ボランティア〉配置、etc)	進捗率	子育て支援センターの機能を有する駅前こどもの広場を平成25年7月に設置し、供用を開始しました。3世代交流講座、健康教育事業、食育事業を実施したほか、地産地消をコンセプトとした親子カフェ(ロブロコカフェ)を併設しています。ボランティアは子育て支援員の参加実績があります。親同士の交流なども図られました。駅前こどもの広場の開設前まで、土手町分庁舎において出張センターを実施済みです。「工程表通り実施済み」と評価しました。				
		A					
	事務事業名	達成率	新規子育て支援センターを平成25年7月に駅前こどもの広場として開設し、供用を開始しました。健康教育事業や親同士の交流などが図られました。延べ130,695人の方の利用があり、十分活用されています。「出張センター事業者参加者数は515人の参加実績があったので、「達成」と評価しました。				
	子育て支援センター(駅前こどもの広場)運営事業	A					
	実施内容 子育て環境の充実のため、子育て支援センターの取り組みを次のとおり行う。 (1)新規子育て支援センターの設置 街中の利便性が高い場所に子育ての中の親子をはじめとする多様な人々が集うひろば型子育て支援センター)を新設する。 ・事業内容 高齢者とのふれあい、食育事業、親同士の交流、健康教育事業 など (2)既設支援センターの充実 大成なかよし会(土手町分庁舎内)において出張センターを開設する。 ・事業内容 高齢者とのふれあい、食育事業 など	目標		H22	H23	H24	H25
		子育て支援センター設置 1か所		-	-	-	1
		出張センター事業者参加者数 H23,H24 1,000人/年 H25 300人/年		-	1,255	1,406	515
		決算額		0	1,191	112	11
	総括	ヒロロスクエアの核となる機能として、平成25年7月27日に供用を開始しました。 親子の交流の場の提供と交流促進、子育てに関する相談援助、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の実施、乳幼児の一時預かり事業など、多様な子育て支援の拠点として機能しています。					
	経営計画への反映等	子育て支援の拠点として、安心して子育てをすることができる環境の整備と子育て家庭の福祉の増進を図るために、経営計画に位置付け継続して取り組みます。 経営計画:「駅前こどもの広場運営事業」					

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
4-(1)-5	児童館の再編・改築	進捗率	施策を構成する3事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」の評価から、施策全体として「工程表どおり実施済み」と評価しました。				
		A					
		達成率	施策を構成する3事業について、(1)①及び②は平成25年度「判断できない」とありますが、すでに目標を達成しており、(2)は「目標達成済み」であることから、施策全体として「目標を達成済み」と評価しました。				
		A					
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
	(1)施設整備事業 ①児童館・児童センター建設事業	進捗率	平成23年度の船沢児童館、平成24城東児童館は供用開始されており、引き続き使用していることから「工程表どおり実施済み」と評価しました。				
	実施内容	達成率	【平成24年度目標達成済み】 目標の「創設または老朽化施設の更新施設数」について、平成24年度に目標を達成し事業を完了しました。(平成25年度目標設定なし)				
			(A)				
		目標		H22	H23	H24	H25
		創設または老朽化施設の更新施設数(H23～H24) 1か所/年		—	1	1	—
		決算額		0	65,533	78,029	0
		総括	計画期間の達成率は100%であり、施設整備の充実が図られました。				
		経営計画への反映等	施設整備については、市のファシリティマネジメントの方針を踏まえ、再検討します。				
		事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容			
	(1)施設整備事業 ②児童館トイレ水洗化事業	進捗率	全児童館でトイレ水洗化を達成しており、引き続き使用していることから「工程表どおり実施済み」と評価しました。				
	実施内容	達成率	【平成23年度目標達成済み】 目標の「トイレ水洗化率 100%」について、平成23年度に目標を達成し事業を完了しました。(平成25年度目標設定なし)				
			(A)				
		目標		H22	H23	H24	H25
		トイレ水洗化率 目標値(H23) 100%		92	100	—	—
		決算額		6,138	6,586	0	0
		総括	平成23年度に全児童館でトイレ水洗化を達成しており、快適な施設環境の充実が図られました。				
経営計画への反映等		トイレ水洗化は全児童館で達成されたので、当該事業を終了します。					
事務事業名		自己評価	平成25年度実施内容				
(2)弘前市北児童センター建設事業	進捗率	平成23年4月1日に供用を開始しており、平成25年度も引き続き児童センターにおいて地域活動・交流の取り組みを実施していることから「工程表どおり実施済み」と評価しました。					
事務事業名	達成率	目標は「地域活動・交流の取り組み件数 40件/年」としており、平成25年度の実績は69件だったことから、「目標を達成済み」と評価しました。					
		A					
	目標		H22	H23	H24	H25	
	新規施設設置 1か所		1	—	—	—	
	地域活動・交流の取り組み件数 40件/年		—	41	79	69	
	決算額		110,664	14,483	14,622	14,622	
	総括	平成23年度以降、毎年度事業実績を上げており、児童館建設事業の効果が表れています。					
	経営計画への反映等	北児童センターを拠点とした地域活動・交流のモデルを確立したといえることから事業を終了します。					

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
4-(1)-6	親力向上委員会(弘前式しつけマニュアルの策定)の設置	進捗率	弘前式しつけマニュアルは、親力向上委員会等を開催し、策定の過程で「子育て応援BOOKにこにこひろさき」という名称としました。 平成25年度は年度当初に2,000部印刷し、保健センターで月2回実施している1歳6か月児健診の際、保護者に配布したほか、子育て支援センター、子育てサークル、保育所(園)、児童館・児童センターなどに配布し、市のホームページにも掲載しました。25年度末には子育てサークルや相談機関の情報を最新のものに更新し、平成26年度配付用として2,000部印刷したことから「工程表どおり実施済み」と評価しました。				
		A					
	事務事業名	達成率	目標の「しつけマニュアル配布部数」については、2,000部を全て配布済みであることから、「目標を達成済み」と評価しました。				
	子育て応援BOOKにこにこひろさき作成事業	A					
	実施内容	目標	H22	H23	H24	H25	
	子育て世帯の家庭教育を支援するために親力向上委員会を設置し、子育ての知識や相談機関・支援メニューなどを総合的に記載した弘前版のしつけマニュアルを作成・提供する。 作成に当たっては、文部科学省が作成している「家庭教育手帳」を活用する。	親力向上委員会開催 2回	-	2	-	-	
		「子育て応援BOOKにこにこひろさき」配布部数 2,000部/年	-	-	1,984	2,000	
		決算額	0	132	518	249	
総括		2歳～9歳前後の子の子育てのヒントや相談窓口を総合的に掲載しており、1歳6か月検診時や窓口での配布が定着しています。議会で、今の冊子よりも上の年齢を対象とした「しつけ指導書」を作成してはどうかという提言があったため、今後、研究してまいります。					
経営計画への反映等	経営計画には位置づけていないが、冊子での配布が定着し、好評であるので、継続して実施します。						

No.	項目	自己評価	平成25年度実施内容				
4-(1)-7	子供会活動の活性化(地域コミュニティの復活)	進捗率	施策を構成する2事業ともに、「工程表どおり実施」との評価なので、施策全体としても「工程表どおり実施」と評価しました。				
		A					
		達成率	施策を構成する2事業ともに、「達成」との評価なので、施策全体としても「達成」と評価しました。				
		A					
				H22	H23	H24	H25
決算額		70	47	320	269		
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
(1)青少年育成委員会地区・学区対話集会	(1)青少年育成委員会地区・学区対話集会	進捗率	平成24年度に実施できなかった2地区について、7月に1地区、12月に1地区で、青少年育成委員等地区・学区対話集会が開催されていることから、「工程表どおり実施」と評価しました。				
		A					
	実施内容	達成率	平成24年度に実施できなかった2地区の対話集会が実施できたことから、「達成」と評価した。				
		A					
	目標		H22	H23	H24	H25	
	対話集会開催数(H23～H24) 市内26地区15地区(H23)、11地区(H24)		—	15	9	2	
	総括	単位町会の子ども会や青少年育成委員の活動は様々な要因から不安定な状況になっています。今後も、「子ども会活動推進事業」を主要施策とした地域の子どもの活動を推進する環境の醸成について支援していく必要があります。					
	経営計画への反映等	平成23年度から開始し、市内26地区の対話集会を完了したことから、事業を終了します。					
	事務事業名	自己評価	平成25年度実施内容				
(2)子ども会活動支援事業	(2)子ども会活動支援事業	進捗率	平成25年度は、施策について各関係機関の会議等において、積極的に補助事業の周知、平成24年度の採択事業の紹介、指導員制度の活用などについて周知を行った結果、補助事業の応募期間中に事業申請がなされていることから、「工程表どおり実施」と評価しました。				
		A					
	実施内容	達成率	目標の「活性化助成件数」は、6回／年に対し7件の交付を確定したことから、「達成」と評価しました。				
		A					
	目標		H22	H23	H24	H25	
	活性化助成件数(H24～H25) 6件/年		—	—	7	7	
	総括	地域が一体となって子ども会活動を推進する環境の醸成が進んでおり、潜在的意欲が高まっているため、引き続き関係者に対して積極的な周知を図り、活用を促していく必要があります。					
	経営計画への反映等	今後も地域の関係者が、地域が一体となって子ども会活動を推進する環境を醸成し、子どもの心身の健全な育成及び地域コミュニティの活性化を図る必要があることから経営計画に位置付けて継続して取り組みます。 経営計画:ひとづくり「子ども会活動支援事業」として継続して取り組みます。					